

平成25年度マネジメントプラン

中期経営目標	中期行動計画	25年度重点目標	25年度行動計画	評価指標	取組状況・成果・課題	評価	改善策
キャリア教育を学校教育の核として充実を図り、生徒がフューチャープランに基づいた確かな進路目標を持ち、その実現に努力する意欲と態度を育成する。	キャリアセンターが学校運営の中核として組織的機能を発揮できる体制を確立する。	キャリアセンターとのさらなる緊密な組織間連携を図る。	キャリアセンターと教科の連携を促進し、生徒の進路実現に向け組織的な取り組みを展開する。	3期生の第1進路希望実現率8割	キャリアセンターのスタッフの役割分担を明確にして他部署との渉外窓口を明確にした。学習部を通じて補習等で教科の連携を図った。 第1進路希望実現率70.2%(2月24日現在)	2	教科主任会の機能を発揮できる組織体制づくり。
	フューチャープランに基づく進路実現を果たせるよう、「キャリアプランニング」の発展充実を図る。	学校全体がキャリア教育の意義についての理解を深め、教育内容の充実を図る。	生徒の追跡調査やアンケートによる教育内容の検証を踏まえた具体的な改善策を教職員全体で共有する。	学校評価での肯定的評価8割	アンケートで得た卒業生、保護者のニーズを根拠にガイダンスプログラムのフローを手直ししてきた。 キャリア教育への評価、は卒業生85.1%(76.9%)、在校生75.2%(73.4%)、保護者86.6%(91.9%)と満足度が高い。	4	保護者の理解を高められるような広報の取り組みや、保護者との協働を工夫する。
	卒業生の追跡調査により本校キャリア教育の質向上を図る。						
学力定着プランを確実に実施することで、基礎から発展まで個々の生徒の学力伸長と、納得のいく希望進路の実現に向けた継続的支援を行う。	フューチャープランに基づく進路実現を果たせるよう、学力向上プランを組織的、計画的に実施できるよう体系化する。	家庭学習を含めた学習への意欲と態度の向上を図る	標準検査に基づき低学力者に対する学力補充の機会を設定する。教科による補習の計画的実施	生徒の自己評価での積極的参加評価7割	1年生希望者への「学び直し」の場、自習室の整備、教科による補習はじっしてきた。検査データに基づいた組織的な取り組みができていない。家庭学習への熱心な取り組み率は、3年次生でも34.6%にとどまる。	2	家庭学習の習慣化を定着させる組織的取り組みを抜本的に構築する。
	希望進路実現のため新学習指導要領に沿った教育課程の検討とキャリアプランニングにおける科目選択の方策を確立する。	新学習指導要領に即した授業改善に取り組む	観点別評価の研修 授業公開と生徒の授業評価の実施 単位認定・卒業認定基準の明確化	生徒の授業満足度7割	職員研修、授業公開等具体的取り組みを教務部が中心に実施したが、観点別評価についてはまだ理解が乏しい。 選択科目は3年次生で75.3%が「期待通り」、72.7%が「進路実現につながった」と評価。	3	観点別評価の本格研修の実施と、授業評価の徹底を図る。
地域や外部教育機関等との連携を充実させ、生徒のコミュニケーション能力や実践力の向上を図る。	外部教育力を積極的に取り入れたキャリア教育の企画運営を充実させる。	生徒の創造的、自律的な活動を促す。	ボランティアサークルを核として生徒の意欲を具体化できる体制を整備する。 学校全体で広報活動を推進する体制を作る。	ホームページアクセス数月10,000回。	ボランティアサークルの設立で、教員が生徒の動向を把握しやすくなった。部活動単位で地域行事へ貢献が恒例化してきた。ホームページのアクセス数は月平均10610回(4月～2月末実績)	4	学校行事を生徒主体で企画運営させていく。ホームページでの情報発信にさらに創意工夫を加える。
	校内外のあらゆる教育活動において、全職員が積極的な情報発信に努め、生徒、保護者、地域の信頼を強固なものにする。 学校自己評価、学校関係者評価、外部評価を学校運営の改善に適切に活用する。	学校評価アンケートをもとに信頼される学校づくりを全教職員が目指す。	育友会を中心とした保護者による後援体制を整備する。 将来像検討委員会の議論を学校改善につなぐ。	学校評価での肯定的評価8割	将来像検討委員会を8回開催し、学校改革への提言をまとめ学校マネジメント委員会へ報告した。 本校教育への満足度評価(鞆鼓は前年%)は、卒業生89.2%(80.0%)、在校生64.0%(55.4%)、保護者85.3%(80.7%)といずれも前年を上回った。	3	在校生の本校教育に対する満足度を上げられる教育ビジョンを描く。
社会的ルールとマナーの理解および福祉マインドに基づいた実践力を身につけ、地域社会から信頼され貢献できる人格形成を図る。	1年次「人間関係」の授業をベースに上級年次のキャリアプラン・HRにも「人間関係」プログラムをとり入れ、3年間を通じた「豊かな心の育成」を目指す。	生徒の健康な心と体の保持増進を図る。	ゲルブウェアを十分活用し朝の読書指導に余裕をもって臨む。 遅刻・欠席状況を月例報告で共有する	職員朝礼を8時20分までに終了。 遅刻者総数月平均100人	職員朝礼では必要最低限の連絡事項にし、概ね3分で終えた。 遅刻者総数月平均98.4人	3	登下校の安全管理の徹底。出席状況の情報共有化を徹底する。
	学校生活におけるルールとマナーを徹底する。	責任者を明確にし校内美化と管理を徹底する スクールカウンセラーを交えた定例会で現状分析と情報共有を生徒指導に活用する。	学校評価での肯定的評価8割	校内美化への評価(鞆鼓は前年%)は、卒業生93.6%(86.40%)、在校生84.6%(77.8%)、保護者90.9%(91.5%)と、保護者以外で前年を大きく上回った。 スクールカウンセラーを交えた月例情報交換会が生徒指導に大きく役立った。	4	器物破損を許さない姿勢の明示。KEMS活動にもリンクした施設管理の徹底。生徒情報を教科にも迅速正確に伝えるように努める。	